

算数 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	94.0	98.8	本年も大問1は、四則演算を含む小問集合6題の出題であった。例年通り軒並み正答率が高くなったが、(4)の仕事算の問題では正答率が低くなった。問われている事柄を勘違いしてしまっている解答が散見された。ケアレスミスによる失点は避けたいところである。
	(2)	91.0	93.8	
	(3)	94.5	97.5	
	(4)	66.8	82.7	
	(5)	73.9	92.6	
	(6)	80.9	92.6	
【2】	(1)	89.9	98.8	速さの基本的な問題。速さが変化するので、条件をきちんと整理すれば難しくない。
	(2)	63.3	84.0	
【3】	(1)	54.8	71.6	図形の周の長さを問う問題。(1)は、すべての辺の長さが分からなくても、周の長さは求まる。(2)は、(1)の結果に3.14をかけて2で割るだけ。(1)、(2)いずれも難しくないが、出だしで躓いたり、(1)と(2)のつながりに気づけないと苦戦しただろう。
	(2)	36.2	50.6	
【4】	(1)	59.3	85.2	規則性の問題。奇数列の最上段が平方数になっていることに気づけるかがポイントである。結果的に合否を分ける問題であった。
	(2)	52.8	79.0	
【5】	(1)	89.3	99.5	食塩水の濃度に関する問題。(1)は基本的な出題で天秤・面積図をきちんと書けた答案が多く良くできていた。(2)は濃度が複雑な分数で解答までのプロセスが多かったため正答率はやや下がったものの、濃度・体積の比をきちんと整理できていた答案は多かった。
	(2)	59.5	82.7	
【6】	(1)	52.5	81.0	おもりを水に沈める典型問題である。沈んでいるおもりの水中部分の体積と底面積と水の深さに注目していけばよい。(1)は水中部分の体積を求め、その深さの差が2cmであることを利用する。理屈的には理解していても上手く記述で表現できていない受験生が多かった。(2)は深さ4cmまでの水の体積と深さがそれ以上の体積を求めればよい。このような問題の類題を演習しているか否かで差がついた問題である。
	(2)	24.0	42.9	

算数特選 正答率・講評

問題	正答率 (%)		講評	
		受験者		合格者
【1】	(1)	61.5	76.5	円と三角形の面積の問題。等積変形や共通部分をうまく利用して解き進めるのがコツ。決して易しくないが、受験生はよく健闘していた。
	(2)	46.5	63.2	
【2】	(1)	81.6	91.7	整数に関する問題。記号の定義を理解し、的確に特徴をつかめている受験生が多かった。なお、各小問に2題ずつ設問があるのは新しい形式であった。
	(2)	57.5	69.0	
【3】	(1)	41.7	59.9	移動する円錐の軌跡の測量の問題。軌跡がどのような図形になるかを把握できるかがポイントだった。答えが小数第3位までとなるなど、計算はやや煩雑であったので正答率は低かった。
	(2)	30.1	44.4	
【4】	(1)	51.9	71.3	通過算の問題。日常生活に関連した問題で、やや長い文章から状況を把握し、問われていることが何かを正確に理解することが求められた。(1)と(2)では、状況が変化するだけで難易度の差はほとんどない。
	(2)	52.4	76.4	
【5】	(1)	63.6	72.1	(1)は典型的なつるかめ算の応用題。基本的な形のつるかめ算にどのようにもっていくかがポイントだった。 (2)の多答問題では、解の条件をうまく絞らないと完全解答は厳しい。それぞれの数にどう着目したかで差が出た。すべてのパターンを列挙することも不可能ではないが、それでは時間が足りなくなるだろう。
	(2)	16.1	23.0	

算数 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	73.8	81.2	例年通り四則演算を含む小問集合6題の出題であった。例年は正答率が9割を超える問題が並ぶが、今回は(2)の割合の問題や(6)の平面図形の面積を問う問題で正答率が低くなった。それらの問題を含め、どの問題もシンプルであり、確実に得点したい。
	(2)	66.1	74.3	
	(3)	91.1	95.8	
	(4)	74.1	83.2	
	(5)	86.6	92.7	
	(6)	62.5	78.0	
【2】	(1)	79.5	92.7	シンプルなニュートン算。受験生の大半は類似問題の経験があったと思われる、正答率も高かった。
	(2)	65.8	81.2	
【3】	(1)	69.6	81.7	日常生活に関連した問題で、やや長い文章から必要な条件を的確に取捨選択しながら読み進めることが求められた。(2)ではさらに状況が進み、設定を把握するのに苦戦した受験生が目立った。
	(2)	20.5	34.0	
【4】	(1)	44.3	58.6	正三角錐を転がす問題。新傾向の問題であり、正三角錐がどのように移動していくのか、規則が見えるまで書き出せるかがポイントだったが、多くの受験生が苦戦した。
	(2)	9.2	14.1	
【5】	(1)	41.8	52.8	(1)は時計算の典型的な問題なので、類問の経験があれば、気をつけるべき点はすぐにわかるだろう。(2)では問題の条件から考えるべき対象をどのように絞るかが焦点であった。角度や和といった条件を使い切れずに、答えを導くのに苦戦している解答が目立った。
	(2)	36.4	47.5	
【6】	(1)	30.7	43.8	旅人算の応用問題である。まず平坦な道の取り扱い方を考え、次に2人の通る時間が一緒になるC地点付近の区間に気付くと(1)の方針が見つかるはず。出来ていた人はみんな解答用紙に自分でアレンジした図をかいていた。(2)は時間が足りず、解答出来なかった受験生が多かったものと思われる。
	(2)	6.3	11.1	

算数 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評
		受験者	合格者	
【1】	(1)	87.0	89.4	例年通り、大問1は四則演算を含む小問集合6題の出題であった。軒並み正答率が高いが、その中では(6)の平面図形の問題では正答率が極端に低くなった。斜線がない部分の図形は中心角15度のおうぎ形と考え違いしたものと思われる。大問1での失点は避けたいところである。
	(2)	95.9	97.9	
	(3)	84.9	97.9	
	(4)	87.7	93.6	
	(5)	84.9	97.9	
	(6)	47.9	72.3	
【2】	(1)	87.0	100.0	比のシンプルな問題。問題文の内容に沿って線分図を書いていけば、自ずと解答にたどり着く。失点できない問題であるが、受験生はほとんど失点していなかった。
	(2)	71.2	91.5	
【3】	(1)	61.6	89.4	三角形の面積の比の問題。相似な三角形や等積な三角形を見つけられるかがポイントだった。図形が入り組んでいて受験生は苦戦を強いられたようだ。
	(2)	12.3	29.8	
【4】	(1)	70.5	89.4	立方体の切断面に関する問題。立体切断は苦手意識を持つ受験生も多いだろう。(1)ではひし形の短い方の対角線は、ひし形の形によらず一定であることに気づけるか、(2)では切断面の図形が正六角形になることが理解できているかがポイントであった。(2)で差がついたが、立体切断の問題演習量の差と思われる。
	(2)	47.9	80.9	
【5】	(1)	90.2	96.5	給水、排水の規則性を見ていく問題。(1)は1分間における給水の量が理解できれば、結論にいたるので良くできていた。(2)は時間と水の量の規則性を理解できているかを問う問題。最後に400Lを足すことを忘れていた答案が案外多く、その結果正答率が(1)と比較して低かった。
	(2)	63.2	73.7	
【6】	(1)	41.1	55.3	「セット」から「1個あたりの平均の値段」を考えようえで、つるかめ算として解く問題。(1)は単品ハンバーガーのみが150円で、残りが100円と考える。(2)は、セットは1個平均130円の品物と、100円、200円の3種類の商品に対して、つるかめ算を解く問題。難易度が高く、正答率は非常に低かった。
	(2)	6.1	13.3	